Close Up クローズアップ 教育機器

多くの人に緑内障の症状を知ってもらうことで早期発見につなげ、視野障害が原因の事故を減らす

Honda は緑内障の方の運転中の視野を疑似体験できるシミュレーターを開発。このシミュレーターを活用し、眼鏡専門店チェーンの（株）パリミキ（本社：東京都港区・以下、パリミキ）は来店するお客さまに緑内障などによる視野障害への理解を深めてもらうことで、これらが原因となって招く交通事故を低減するための取り組みを行っている。

緑内障は視神経の障害に起因し、視野障害をきたす目の病気で、日本では 40 歳以上の 20 人に 1 人が緑内障を患っているといわれている。気づかないうちに病状が進行し、運転中に信号を見落としたり、他者の飛び出しに気づかなかったりして事故に発展する可能性がある。しかし、早期発見ができれば、眼科での治療を通して症状の悪化を軽減することが期待できる。Honda は多くの人に緑内障への理解を深めてもらうため、緑内障疑似体験シミュレーターを開発した。

このシミュレーターは、タブレット端末の画面に映し出される緑内障視野の運転動画（CG）によって、運転中の緑内障の見え方を疑似体験できるようになっている。さらに、緑内障視野の運転動画の後に、同じコースを走行する正常な視野の運転動画と比較することができる。

パリミキは緑内障の啓発を行うことを目的に、緑内障疑似体験シミュレーターを 1 月 19 日から 21 日までの 3 日間、同社鴻巣店（埼玉県鴻巣市）に設置。来店するお客さまに体験してもらった。

同社営業本部スーパーバイザー 野田城太朗さんは「弊社で行っている、お客さまに『トキメキ』と『あんしん』をお届けするという取り組みにおいて、安全に暮らせる『あんしん』と Honda の事故を減らす取り組みとの高い親和性を感じました。その中で、私たちは、緑内障をはじめとする目の病気に対する理解を深めていただき、『目は大切である』ことを多くの方に伝えたいと思っています。鴻巣店は埼玉県の運転免許センターの近くにあるため、クルマで来店される高齢のお客さまが多く、目と運転に関する相談も少なくありません。そこで、まず鴻巣店に緑内障疑似体験シミュレーターを設置することにしました。今回の結果をふまえ、他の店舗にも展開していきたいと考えています」と話す。

このシミュレーターを体験しようと鴻巣店を訪れた 65 歳の男性は「緑内障の場合と健常の場合を比較できたので、症状に気づかずに運転するとどのような危険があるか、よくわかりました。緑内障は誰でも患う可能性があります。私も目だけでなく、顔を動かして今以上に左右や後方の状況をよく確認することを意識しようと思いました」と話す。また、完成した眼鏡を受け取りに来店した際に体験した 36 歳の男性は「緑内障がどんな病気かまったく知らなかったので良い経験になりました。早速、この話を両親や祖父母にして、検査を勧めてみます。普段、遅く走っているクルマがいるとイライラしていましたが、このような目の病気を抱えていると速度を出せない場面もあるでしょう。私自身がもっと心に余裕を持って運転する必要があると感じました」と感想を語った。

Honda はパリミキとの連携を深めるとともに、緑内障疑似体験シミュレーターを活用した啓発の場と機会を拡大したいと考えている。

Honda が開発した緑内障疑似体験シミュレーター。同じ視点で比較すると緑内障の方の視野では対向車が見えていないことがわかる

（株）パリミキ 営業本部 スーパーバイザー 野田城太朗さん

緑内障疑似体験シミュレーターが設置された パリミキ鴻巣店

鴻巣店では 2022 年 12 月から Honda ドライビングシミュレーターを常設している

Close Up クローズアップ 四輪販売会社

サブスクでクルマを利用している大学生を対象に安全運転教育を実施

Honda Cars 光東（本社：山口県下松市）は KOPOLO という山口県内の大学生限定で長期レンタカーサービスを提供している。これは同社と大学生が共同開発したクルマのサブスクリプション（サブスク）で、企画・運営は現役大学生（学生アシスタント）が主体的に行っている。1 月 15 日、山口大学の学生を対象にした交通安全教室が開催された。

KOPOLO は、山口県内の大学生にクルマを通して山口県の魅力を体感してもらうことを目的として、2020 年からスタートした。Honda Cars 光東で KOPOLO の窓口となっている西原和香子さんは大学生向けにクルマのサブスクを提供している背景を次のように話す。

KOPOLO（KOTO×APOLLO）というネーミングには、Honda Cars 光東（KOTO）が、1969 年に APOLLO11 号が人類と月を繋いだように、山口県と県内の大学生を繋ぐ架け橋となるという想いが込められている

「山口県は公共交通機関が充実していないため、クルマがないと行動範囲が限定されてしまいます。特に、山口大学の学生は県外出身者が多く、そうした方々は実家のクルマを利用することもできません。大学生活を山口県で過ごすのであれば、県内の魅力的なスポットに出かけて、より多くの経験と学びを得てもらおうと、当社のインターンシップに参加した大学生と KOPOLO を企画しました」。

KOPOLO は最安で月額 1 万 6500 円（税込・1 年プラン）から利用できる。これには任意保険、補償費用、メンテナンス費、税金も含まれており、駐車場代とガソリン代以外に追加料金はかからない。

2021 年には山口大学生協と業務提携を締結。山口大学の学生を中心に、2024 年 2 月現在、約 200 名が KOPOLO を利用している。その一方で、利用者による事故が課題だと西原さんはいう。「事故は狭い道での右左折や駐車する際、不注意で塀などにぶつけてしまうという軽微なものですが、いつか重大事故につながる恐れがあります。安心・安全にクルマを利用していただくことが当社の使命なので、利用する方々への安全運転教育が必要だと考えました」。そこで、西原さんは山口大学生協の協力を得て、山口大学のキャンパス内で交通安全教室を開催することにした。交通安全教室は 1 月 15 日に行われ、山口大学の学生 9 名が集まった。Honda Cars 光東は、過去に「みんなで安診（みんなで安全運転行動診断）※」の開発に協力するとともに、店頭での高齢のお客さまへの安全アドバイスに活用していたため、これを大学生向けにアレンジして使用。座学では、ペダルの踏み間違いによる事故は高齢者だけでなく若者が運転しているケースも多いことや、乗車前に運転席から見えない死角を確認することの重要性などを伝えた。さらに、屋外で実車を使い、死角となる範囲を一人ひとりに確認してもらった。

受講した大学生からは「次回があれば、また参加したい」という声が多く、西原さんは手応えを感じている。「今回は“交通安全教室”という名前で開催しましたが、大学生が積極的に参加したいと感じるものではありません。さらに多くの方に参加していただけるように、次回は楽しく学べる要素を取り入れるなど内容は変更する必要があると考えています。最低でも年 1 回、大学生が長期の休みに入る前のタイミングで開催することをめざしています」。

※すべてのドライバーにペダルの踏み間違いを防ぐ安全行動の重要性に気づいてもらうため、Honda が開発したプログラム

交通安全教室は「みんなで安診」の映像版を活用。ペダルの踏み間違いによる事故は高齢者だけでなく若者が運転しているケースも多いことや、乗車前に運転席から見えない死角を確認することの重要性などを大学生に伝えた

交通安全教室は山口大学・吉田キャンパス内の施設で 1 時間にわたり行われた

大学生に実車の運転席に座ってもらい、三角コーンを使って死角にあたる範囲を確認